



Newsletter

日本在宅ケア学会

No.14

2021 年 3 月発行

一般社団法人日本在宅ケア学会
事務センター
〒162-0825
東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル
TEL:03-5206-7431
FAX:03-5206-7757

令和 2 年度講座日より

学会活動推進委員会：「在宅ケアにおける COVID-19 感染予防対策」 公開講座紹介

学会活動推進委員会公開講座

在宅ケアにおける

COVID-19 感染予防対策の HOW TO

講師：黒須 一見（国立国際医療研究センター
国際医療協力局 客員研究員）

この公開講座は、2020 年 10 月より、国立国際医療センター客員研究員である黒須一見先生を講師にオンラインで公開されています。在宅ケアでも特に訪問系サービスにおける COVID-19 感染予防対策について、ウイルスの特徴からケアに応じた対策、事業所内での感染予防対策など、3～7 分程度の動画 8 つで構成されています。すべて視聴すると在宅ケアでの感染予防対策について総合的に知ることができますし、特に知りたい内容のみの視聴も可能で、大変使いやすい構成となっています。

在宅ケアでは、利用者宅の状況により実施できる対策が異なります。訪問の場面を想定した

感染対策の原則だけでなく、原則どおりの対策がとれない場合の工夫も紹介されています。

また、防護具の準備や、消毒可能な物品の使用などの物理的な対策に加え、他の事業所と情報共有して利用者の近況を把握したり、利用者宅に入る前に症状の有無を確認するなど、事前の情報収集の大切さが述べられています。在宅ケアでは、感染対策としても積極的な情報収集が大切だとわかりました。

最後の Q&A では、多々ある COVID-19 の情報から信頼に足るものを選別するには、情報源の確認が大事だと述べられています。ケア提供者として、信頼ある情報に基づいて行動することは利用者やご家族を守り、必要なケアを提供し続けることだけでなく、自分たちケア提供者やその周囲の人々も守り、感染蔓延に歯止めをかける手助けになると感じました。

高知県立大学看護学部看護学科

竹中英利子

活動報告

集住でのよりよい看取りの実現に向けて

集住でのよりよい看取りの実現に向けて

大野かおり（兵庫県立大学看護学部看護学科）

私たちの研究班は「生活の場にありながら住み慣れた家ではない集住での、生活者のQOLを最上位に置きつつ看取りを支えるために必要な包括的ケアマネジメント」について検討しています。

2019年度はさまざまな集住（特養、GH、サ高住など20施設）の管理者、施設スタッフ等を対象に、終末期のケアマネジメントにおける医療と介護の連携について面接調査を行いました。その結果、施設により看取りへの取り組みに違いはあるものの、看取り期早期から医療ニーズに対応することの難しさ、訪問看護など医療との連携強化やBSCに取り組める体制構築の必要性、施設の特徴を活かした適切なリロケーションの重要性が示唆されました。

また、インクルーシブなまちづくり方略について明らかにするため、多世代型介護付きシェアハウスやノーマライズタウン構想などユニークな取り組み（7施設）を調査するとともに、グラフィックファシリテーションを用いたシニアの人生の振り返りと看取りの場WS等を開催しました。モノやサービスにも限界があり、「人による対応」や「人の繋がり」が必要であるとわかりました。住まいとまちをつなぎ、人と人を紡ぐ住み方「住みつなぐ」、終末期においても「ここでの理想の暮らし」が送れる環境が重要であるとわかりました。

現在、中山間部における看取り調査データを分析中です。コロナの影響でフィールドワークが難しい時期ですが、多死の時代に対応できるよう研究を進めます。なお、本研究はJSPS科研費JP19H03964の助成を受けています。



会議の様子

日本在宅ケア学会 新体制のご紹介

—令和2～3年度理事・監事一覧および委員会名簿—

◆理事長◆



亀井 智子
聖路加国際大学大学院看護学研究科

今期も日本在宅ケア学会理事長を拝命いたしました。引き続きアカデミアとして在宅ケアの推進と向上に全力で取り組みます。会員のみなさまのご参画なくして闊達な学会運営はできません。COVID-19の状況が予断を許さないなかではありますが、会員のみなさまとともに、在宅ケアの教育・研究を前進させ、社会に貢献する学会であるよう、理事会そして外部団体との連携も図りながら、着実に前進したいと思います。会員のみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

◆副理事長◆



岡田 進一
大阪市立大学大学院生活科学研究科

このたび、副理事長を拝命いたしました大阪市立大学大学院生活科学研究科の岡田進一と申します。微力ではございますが、亀井理事長を支えながら、会員のみなさまのご協力を得て、適切な学会運営をさせていただきたいと存じます。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

◆理事◆



上野 まり
自治医科大学看護学部

引き続きJANAを担当させていただきます。近年の気象変動に伴うさまざまな自然災害、新たな感染症のまん延と、地球規模の健康課題が次々と課せられています。「人々の普通の暮らし」を多職種が協働して守る「在宅ケア」が、今後ますます求められると感じています。



牛久保美津子
群馬大学大学院保健学研究科

実践・研究助成委員長を拝命いたしました。また、引き続き、編集委員も担当させていただいております。新型コロナによる世界的規模の災難に負けず、在宅ケアの充実や発展につながる実践・研究への取り組みに、学会が応援できるよう努めてまいります。



梶井 文子
東京慈恵会医科大学医学部看護学科

このたび初めて日本在宅ケア学会理事を拝命いたしました。学会活動推進委員会の一員として活動してまいります。微力ながら、みなさまのご指導・ご鞭撻をいただきながら学会活動に貢献していきたいと思っています。



加瀬 裕子
早稲田大学人間科学学術院

学会活動推進委員会委員長を拝命しました。委員会では、学会員の研究や経験の交流を図る講演会やセミナーを計画し、学会外にも在宅ケアの普及活動を行います。2016年度から連続公開講座として行いました「在宅における食べることの支援」は、大変ご好評をいただきました。ある参加者は、現在でも、講義内容をデイサービスでの毎日の業務に生かすだけでなく、その地域の介護職の研修に活用しています。このように在宅ケアの現場と学会の知見の架け橋となることが、委員会の役目だと思います。2020年度は「COVID-19感染予防公開講座」をオンラインで行い、次回は、「排泄」をテーマに公開講座を行う予定です。よろしくお願いいたします。



工藤 禎子
北海道医療大学看護福祉学部

それぞれの地域特性に応じた在宅ケア，どんな地域でも人々が安心，安全に暮らせる在宅ケアが大切と考えています。多職種で学び合える本学会の強みが生かせるように尽力したいと思いますので，よろしくお願い申し上げます。



黒田 研二
西九州大学看護学部

関西大学を辞し2020年4月から西九州大学に着任し，社会福祉教育から看護教育にシフトしました。地域包括ケア時代には医学，看護学，社会福祉学，介護福祉学などの垣根をこえた包括的視野の教育と実践が重要になります。本学会もそうした指向性をもって研究に励んでいきたいものです。



河野あゆみ
大阪市立大学大学院看護学研究科
在宅看護学

政策提言検討委員長を拝命いたしました。持続可能なケアを提供するために，介護・医療の適切な報酬のあり方を目指して，レセプト等のデータから有効な在宅ケアの根拠となる研究を推進することが必要です。政策提言につながる研究の方策について，活動のなかで見いだしていきたいと考えております。



小長谷 百絵
上智大学総合人間科学部看護学科

この度初めて理事を拝命し，このような会員数も多く学祭的な学会で活動できることを光栄に思います。会計と編集委員会の一員として活動させていただき組織的に，より在宅ケアの質の向上に貢献できるよう活動してまいりたいと思います。



小西かおる
大阪大学大学院医学系研究科

引き続き学会誌の編集委員長を担当させていただくことになりました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）における実践現場での対応など時代に即した特集や在宅ケアの発展に寄与する研究が多く掲載できるよう努力し続けます。



下田 信明
東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科

生涯教育委員長，ガイドライン作成委員，そして第27回学術集会長として活動します。コロナ禍はまだ継続するとは思いますが，そのなかにおいても，会員や一般市民のみなさまの役に立つ活動を行いたいと思います。みなさまからのご意見・ご指導をいただければと存じます。



白澤 政和
国際医療福祉大学大学院

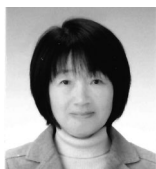
地域共生社会の実現が求められるなかで，日本在宅ケア学会の役割がますます重要になっています。すべての世代であるだれもが役割をもって生活していける社会の創造のために，理事として，また会員としてがんばっていきたいと思っています。



瀧澤 利行
茨城大学教育学部

引き続き，倫理委員会委員として務めさせていただきます瀧澤です。どうぞよろしくお願いいたします。勤務先の大学でも研究・産学官連携委員会の委員として日頃から研究倫理やコンプライアンスの問題と関わっております。近年，研究機関においても産業部門との連携は研究費確保の観点からも推奨させつつありますが，一方で報道にもあるように，政界はもとより官界，学会においても企業との関わりには細心の配慮を要するようになっております。利

益相反、責務相反の課題は、社会の進歩に応じて研究が行われるという現象を考える時に、不可欠の検討課題となりつつあります。本学会においても、研究機関と企業との関連、研究成果の社会実装という観点から避けて通れない課題といえます。会員の先生方と一度ゆっくり議論する機会が欲しいところです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



谷垣 静子
岡山大学大学院保健学研究科

今期も引き続き実践・研究助成委員会を担当させていただきます。在宅ケアの実践活動や研究活動を育んでいけるよう自分自身も切磋琢磨していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



辻 彼南雄
水道橋東口クリニック

引き続き、理事を拝命いたしました。今期もガイドライン作成委員を務めさせていただきます。ご多忙な亀井智子委員長のサポートをしながら、在宅ケア現場のみなさんに有益となるガイドライン作成をめざしたいと思います。



長江 弘子
東京女子医科大学看護学部

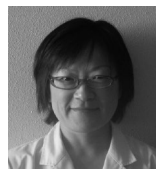
今期は総務委員、政策提言検討委員会に所属し活動します。在宅ケアにかかわる政策提言については看保連を窓口として学会としての社会的意義を高めるよう有効活用していきたいと思っています。政策提言検討委員として在宅ケア推進のために活動していきたいと考えます。会員のみなさまのご意見も反映したいと思いますので、ご協力のほど、お願い申し上げます。



永田 智子
慶應義塾大学看護医療学部

倫理委員会委員長の永田でございます。多様な

バックグラウンドの方々から構成され、現場からの発信も多い在宅ケア学会ならではの、研究等に関する倫理上の課題に、引き続き取り組んでまいりたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



古瀬みどり
山形大学大学院医学系研究科

前回に引き続き理事を拝命しました。編集委員を担当いたします。在宅ケアの知の蓄積につながるよう役割を果たしていきたいと思っています。



森下 安子
高知県立大学看護学部看護学科

引き続き広報委員長を担当させていただくことになりました。COVID-19の感染拡大という社会の変化のなかでも、最前線で住民の健康と暮らしを支援している在宅ケアの取り組みや学会活動について情報発信していきたいと考えております。会員のみなさまからもぜひ先駆的な実践活動等の情報をいただければ幸いです。

◆監事◆



金川 克子
特定非営利活動法人いしかわ在宅支援ねっと

監事となりました金川です。監事の仕事は、業務及び会計の監査です。在宅ケアは、医師は、もちろんのこと、看護、リハビリ、福祉関係者が、手をたずさえて、在宅ケアについて議論を重ねる場であり、会員の活動を期待する。



村嶋 幸代
大分県立看護科学大学、東京大学名誉教授

地域包括ケアが重視されるようになり、在宅ケア学会の役割はますます重要になっています。多くの職種が集えるという強みを生かして発展できるように期待しています。

◆委員会新体制名簿◆

<編集委員会>

委員長：小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

副委員長：工藤 禎子（北海道医療大学看護福祉学部）

委員：石橋みゆき（千葉大学大学院看護学研究科）、牛久保美津子（群馬大学大学院医学研究科）、小野若菜子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）、加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院）、久篠 奈苗（東京家政大学健康科学部）、小長谷百絵（上智大学総合人間科学部）、白澤 政和（国際医療福祉大学大学院）、竹本与志人（岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科）、永田 智子（慶應義塾大学看護医療学部）、古瀬みどり（山形大学医学部看護学科）、増田 和高（武庫川女子大学文学部心理・社会福祉学科）

<学会活動推進委員会>

委員長：加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院）

委員：尾崎 章子（東北大学大学院医学系研究科）、梶井 文子（東京慈恵会医科大学医学部看護学科）、鈴木優喜子（杏林大学保健学部作業療法学科）

<広報委員会>

委員長：森下 安子（高知県立大学看護学部看護学科）

委員：川上 理子（高知県立大学看護学部看護学科）、黒田 研二（西九州大学看護学部）、竹生 礼子（北海道医療大学看護福祉学部看護学科）

<倫理委員会>

委員長：永田 智子（慶應義塾大学看護医療学部）

委員：綾部 貴子（梅花女子大学）、小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）、瀧澤 利行（茨城大学教育学部）

<政策提言検討委員会>

委員長：河野あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科在宅看護学）

委員：池田 直隆（大阪市立大学大学院看護学研究科）、上野 まり（自治医科大学看護学部）、長江 弘子（東京女子医科大学看護学部）成瀬 昂（東京大学大学院医学系研究科）、藤野 泰平（株式会社デザインケア みんなのかかりつけ訪問看護ステーション）吉江 悟（東京大学高齢社会総合研究機構）

<論文賞選考委員会>

委員長：白澤 政和（国際医療福祉大学大学院）

委員：岡田 進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科）、亀井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）、小西かおる（大阪大学大学院医学系研究科）

<実践・研究助成委員会>

委員長：牛久保美津子（群馬大学大学院医学研究科）

委員：神部 智司（大阪大谷大学人間社会学部）、谷垣 静子（岡山大学大学院保健学研究科）、中谷 久恵（広島大学大学院医歯薬保健学研究科）、平澤 則子（新潟県立看護大学）

<生涯教育委員会>

委員長：下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科）

委員：榎本 雪絵（杏林大学保健学部理学療法学科）、福島 道子（岩手保健医療大学）、薬袋 淳子（岐阜医療科学大学保健科学部）

<ガイドライン作成委員会>

委員長：亀井 智子（聖路加国際大学大学院看護学研究科）

副委員長：辻 彼南雄（水道橋東口クリニック）

委員：岡田 進一（大阪市立大学大学院生活科学研究科）、尾崎 章子（東北大学大学院医学系研究科）、加瀬 裕子（早稲田大学人間科学学術院）下田 信明（東京家政大学健康科学部リハビリテーション学科）

令和2年度日本在宅ケア学会論文賞受賞に寄せて

—優秀論文賞受賞者，奨励論文賞受賞者より—

◆令和2年度日本在宅ケア学会優秀論文賞



岩田 尚子

東京医科大学医学部看護学科

■受賞論文 原著

外来看護師と訪問看護師が判断する外来化学療法を受ける高齢がん患者が訪問看護を導入する意義

岩田 尚子（東京医科大学医学部看護学科）

諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究院）

〔日本在宅ケア学会誌 Vol.23 No.1 掲載〕

このたびは優秀論文賞を賜り，大変光栄に存じます。本研究にご協力いただいたみなさまへ，心より感謝申し上げます。そして，査読をしてくださった先生にも，厚く御礼申し上げます。私は，先生方のご意見から，先生方が本論文をよりよいものに，そして，著者の成長を促そうとされていることを感じました。それは論文修正を進めるなかで，大変励みになりました。

本研究では，外来化学療法を受ける高齢がん患者に対する訪問看護導入に焦点を当て，外来看護師と訪問看護師の立場から，その意義を明らかにしました。引きつづき，在宅ケアに貢献できるような研究に取り組むと共に，訪問看護の素晴らしさを色々な方に伝えられるよう努力する所存です。今後ともご指導のほど，何卒よろしくお願い申し上げます。

◆令和2年度日本在宅ケア学会奨励論文賞



沢口 恵

東京女子医科大学看護学部

■受賞論文 原著

訪問看護を利用している小児の利用者数と医療的ケアの実態

沢口 恵（東京女子医科大学看護学部小児看護学）

山路野百合（聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程）

大田えりか（聖路加国際大学大学院看護学研究科）

田村 正徳（埼玉医科大学総合医療センター）

〔日本在宅ケア学会誌 Vol.23 No.1 掲載〕

このたびは日本在宅ケア学会奨励論文賞を賜り，大変光栄に存じます。本研究にご協力いただきました訪問看護ステーションのみなさま，ご指導いただきました査読者の先生方に厚く御礼申し上げます。本研究は小児の訪問看護利用者数から医療的ケア児数と必要な医療的ケアの内容を明らかにし，医療的ケア児に必要な支援について検討いたしました。医療的ケア児と家族への支援体制の発展を目指し，今後も研鑽を積んで参りたいと思います。

各種ご案内

ニュースメール配信用 メールアドレス登録のお願い

本学会では、会員のみさまへ迅速に情報提供を行うために、「ニュースメール」（不定期／年数回）を配信しております。未登録の方は会員専用サイトにて登録情報入力フォームよりご登録いただくか、会員登録事項変更届のご提出をお願い申し上げます。

実践および研究助成金について

■第8回実践・研究助成金募集結果■

＜2021年度助成者＞ ※助成額：各20万円

◇No. 21-001「ロボット支援前立腺全摘除術後

3か月間に生じる在宅高齢者の両失禁量とQOLの変化および日常生活上の困難の関連性：混合研究法による検討」

石川 和枝（帝京大学医学部付属病院）

◇No. 21-002「運転免許証自主返納による高齢家族介護者の介護生活の変化」

清水 律子（三重県立看護大学）

◇No. 21-003「大学病院併設型訪問看護ステーションの経営戦略：医療の高度化に対応した地域医療インフラとしての価値提案」

李 錦純（関西医科大学看護学部）

■第9回実践および研究助成募集について■

募集期間：2021年10月1日～11月30日（予定）

応募資格：実践および研究代表者は当学会員（入会手続きが完了している者）であり、該年度の会費を振り込んだ者。

※詳細が決定次第、学会ホームページに掲載予定。

第26回日本在宅ケア学会学術集会のご案内

- テーマ：地域社会が協働で織りなすコミュニティケア
- 学術集会長：中谷久恵（広島大学大学院医系科学研究科）
- 会期：現地 2021年8月28日（土）、29日（日）
オンライン 2021年8月25日（水）～8月31日（火）
- 開催方法：現地と学会Webによるハイブリッド方式で開催いたします。
- 会場：広島市国際会議場（〒730-0811 広島県広島市中区中島町1-5）
 - ・会場は外気交換が可能な窓を設置している2会場へと変更し、ソーシャルディスタンスを確保した一日100人程度の入場制限をいたします。
 - ・入場者の募集は8月初旬からホームページで受け付けを開始します。感染状況により広島県に県境を越える移動自粛や国内に緊急事態宣言が発令されている場合には、入場者の縮小や完全オンラインになることも想定しております。
- 主なプログラム：
 - ・現地の会場はシアタールームを設営し、座長と発表者は遠隔地もしくは現地からZOOMでの参加となります。一般演題は口演・ポスターとも演題群を設け、口演のみZOOMでライブ討論を行います。
 - ・プログラムは変更する場合もございますので、今後はホームページでの確認をお願いいたします。
- 8月28日（土）／1日目（9：00～17：00）
 - ・開会式
 - ・学術集会長講演 在宅ケアを支えるケアマネジメント
 - ・特別講演 ケアをするという営み
 - ・教育講演1 地域共生社会の実現に向けて（仮）
 - ・教育講演2 リーダーシップで牽引する人材育成と組織開発
 - ・教育講演3 AI・ロボットで創出する近未来のケアレボリューション

- ・シンポジウム 1 情報化を活用した地域包括ケアネットワークの構築
- ・シンポジウム 2 コミュニティで育む新時代のケア
- ・市民公開講座 私たちの心づもり；診療現場での対話から
- ・一般演題発表（口演）
- 8月29日（日）／2日目（9：00～17：00）
 - ・シンポジウム 3 災害・感染のリスクに対応する地域でのサービス提供体制
 - ・シンポジウム 4 地域で多職種と協働する力を育成する基礎教育カリキュラム
 - ・ワークショップ もしバナゲーム
 - ・映画上映 「ほけますから、よろしくお願いします。」
 - ・シネエデュケーション 認知症が私たち家族にくれたギフト
 - ・閉会式
- 8月28日・29日（両日）
 - ・一般演題発表（口演）
 - ・ワークショップ（公募）
 - ・交流集会（公募）
 - ・ランチョンセミナー
- 学会 Web 会場
 - ・論文賞授賞式、授賞者記念発表
 - ・学会委員会企画 講演会
 - ・ポスター（掲示板での討論）
- 参加登録
 - ・参加登録開始：2021年3月3日～
 - ・演題登録期間：2021年3月3日～4月15日
 - *筆頭者は会員である必要がありますが、共同発表者は非会員でも演題登録が可能です。
 - ・参加登録は第26回学術集会ホームページより行ってください。
URL：<https://jahc26.hiroshima-u.ac.jp/>

学術集会早期参加 申込締切日：2021年7月20日（火）

●参加費

	抄録送付あり		抄録なし
	3月1日（月）～ 7月20日（火）	7月21日（水）～ 7月31日（土）	7月21日（水）～ 8月20日（金）
会 員	[早期] 8,000 円	10,000 円	8,000 円
非 会 員	[早期] 10,000 円	12,000 円	10,000 円
入金期限日	7月31日（土）	8月1日（日）	8月23日（月）
大 学 院 生	4,000 円		
学 部 生	2,000 円		
入金期限日	8月1日（日）		8月23日（月）

- ・社会人院生の方は会員か非会員でのご登録をお願い致します。
- ・大学院生と学部生の方で7/31までに申し込まれた場合には、抄録購入の選択を登録時にお選びください。
- ・抄録なしを申し込まれた方は学会ホームページのプログラム（演題・演者名を掲載）をご利用ください。
- ・参加費のお支払い方法は、クレジット決済、銀行決済、コンビニエンス払いのいずれかを選択していただけます。

◆お問い合わせ◆

第26回日本在宅ケア学会学術集会運営事務局

〒730-0031 広島市中区紙屋町2-2-2 紙屋町ビル2階 株式会社JTB広島支店内

TEL：082(236)3733 / FAX：082(240)6030 / E-mail：taikai_hij@jtb.com

問い合わせ時間：9：30～17：30（土・日・祝日は除く）